

2023 年度 学校法人 三幸学園 仙台ウェディング＆ブライダル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 石川 孝紀

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 加藤 竜次

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング・ブライダル分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング・ブライダル分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNO1.のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- コロナ禍で関係企業との連携や地域連携等を課題感として挙げていたが、2023 年度 5 月より新型コロナウイルス感染症が 5 類相当に引き下げとなり、多くの企業連携や地域連携を進めることが出来た。具体的には宮城県ブライダル協議会への加入に伴い、地域の小学生向けにブライダルのお仕事体験の運営、ドレスショーの実施等関係企業、地域連携の実施が出来た。
- 上記企業連携やインターンシップ実習等を通して、業界が求める人材像について改めて教員が理解を深めることで、学園として目指す人材育成像と業界が求める人材育成像がしっかりとマッチするように引き続き業界連携を高めていく。

② 学校関係者評価委員会コメント

- 小さなイベント等が無くなったりと、コロナ禍からの自粛ムードの影響はまだ感じている。学校としてこのようなイベントや企画を実施することで、地域や社会に対しても大きな影響力がある為、引き続き実施を進めた方が良い(丹野委員)
- コロナウィルスの影響は感じられなくなったが、物価高や円安といった景気不安の影響からか、結婚式や葬儀等個人での行事を規模縮小や、やらない等少なくなったように感じる。そもそも将来業界の担い手になるであろう子供たちが結婚式に参加する機会も減っているのではないかと。小中高生が結婚式に参加する機会があれば、将来的に学校の集客、ブライダル業界の集客、人材確保に繋がると思う。
地域の小中高生を模擬挙式や本物式に招待するなどをしても取り組みとしては良いのかもしれない(加藤委員)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ブライダル業界との連携を強めたことで、業界ニーズに合った、人材育成の方向性を定めること出来たが、一方で保護者との連携に関しては課題感を感じる。保護者に対して学校や変化の多いブライダル業界についての説明をする機会が入学前のオープンキャンパスと入学前オリエンテーションしかなく、実際に入学した後に連携を図る機会が少ない。

② 今後の改善方策

- 2024 年度の新たな取り組みとして 1 年時の 7 月に行う校内模擬挙式の行事に保護者様を招き、その後懇談会を実施する等、今の生徒の様子や学校として取り組んでいることなどを周知する機会を設ける

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 保護者連携については引き続き継続した方が良い。昔と比べて保護者の考え方の変化等もあると考える為、学校の現状やタイムリーな連携を図ることが重要だと考える（丹野委員）
- 保護者連携はとても大事だと考える。三幸学園の教育理念を思えば生徒が前向きに明るく育っていく様は、間違いなく感じてもらえると思う。全ての保護者と連携を図るのは難しいが懇談会は良い案だと思う。その他にも授業参観や個人面談があれば、教育に熱心な保護者は参加したいのではないか（加藤委員）
- 自分が在学していた時も親は学校で自分が何をやっているのか、気にはなっていたように思う。ブライダルコレクション、模擬挙式等で保護者を呼べる機会があった方がいいと感じる（中村委員）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- 昨年度の課題であった情報共有については、何を情報共有するのかについて学内で方向性を定めたが、一方で情報の受け手側のニーズについての察知が弱かったと考える。

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 情報の受け手側のニーズをしっかりと学校側がキャッチをして、HP の公開だけではなく、SNS 等も活用しながら幅広く情報を発信していくことが大事だと思う（丹野委員）
- 情報共有は受け手のニーズが重要だと思うので、誰に何をどこまで提供するのが重要だと思う。（加藤委員）
- 他の委員と同様に情報共有は非常に大切になってくると感じる（中村委員）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ブライダル業界もほぼコロナ禍前の水準に戻ってきている為、昨年度の課題は解消がされた。カリキュラム編成については 2026 年度に向けてカリキュラム編成を実施する為、より生徒にとっての学びの質を高めるカリキュラムを作成していくことが必要だと考える。

② 今後の改善方策

- ブライダル業界の動向や状況を察知し、新カリキュラムへ取り入れる内容の精査を行う

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 学ぶ内容の本質に変化はないと感じるが、ブライダル業界のトレンドや新郎新婦のニーズには変化があると感じるため、ブライダル現場や企業様との連携を通してカリキュラムの編成を行うと良いのではないかと（丹野委員）
- 業界の動向などは現場に携わっている学校関係者も日々アップデートして伝えていくことが必要だが、カリキュ

ラムに反映するのは難しいように思う。日々の授業の中で、現場の動向や状況を感じられる教育や活動が必要なのではないか。また、経済活動についてももっと目を向けさせてはどうか。若者の経済活動への意欲が希薄に感じる為、憧れや希望だけでは業界に残っていくことは難しいと思う。ブライダル業界の経済活動について、企業の上層部や総務、営業等の人物から現場の声として伝えていく機会があっても良いのでは。

経済活動として業界を理解していれば、就職後の現実に直面した際の離職率も減ると思う。(加藤委員)

- ドレス現場においては、最新のトレンドをいかに察知して新郎新婦へ対応していくかが必要になってくるため、学校でトレンドを伝えることは非常に重要だと考える(中村委員)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

- 昨年度と変わらず目標喪失が理由の退学者が増加している。

② 今後の改善方策

- 昨年度より入学前のオープンキャンパス等でしっかりとブライダルの仕事観を伝えているが、目標喪失が原因の退学者の数は変わらなかった。2024 年度はブライダル研修先を増やしたり、就職決起会にて実際に働く方の話を聞く機会を増やし、目標喪失につながらないように努める。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 退学が悪いことではないが、目標喪失が原因での退学が非常に残念な結果だと思う。入学前からの業界説明を進めていると思うが、成果を上げるために説明する内容等の見直しも必要だと思う(丹野委員)
- 目標喪失を理由に退学する者をゼロにすることは難しいと思うが、非常に残念なので学園内での進路変更を進めることはできないのだろうか。また、卒業生で業界活躍している先輩を招待しての講話などを実施し、卒業後に現場で活躍している姿や希望に溢れている様子など見せることで再度目標に向かっていくのではないかと(加藤委員)
- 自分の周りにも目標喪失で学校を退学した友人もいた。早い段階で現場を見るというのは重要だと思う。(中村委員)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ダイレクトメールやパンフレットにおいても既卒者が学びやすい情報を提供したが、結果として成果が上がったと言えるほどの入学生は増加をしていない。

② 今後の改善方策

- 既卒者の学び直しに対する取り組みを、ダイレクトメールや SNS 等を通して認知強化をしているが、結果が出ていないため、個別アプローチやタラの相談会等の実施を進めていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 求人倍率等の上昇により、就職がしやすい環境において、学び直しをしてまで学校に通いたいという層も減っているのではないかと。そうであれば学び直しに対するメリットや企業連携等を広報で伝えていき、少しでも興味を持ってくれる層を増やすことから始めればよいのではないかと（丹野委員）
- 転職やキャリアチェンジを考えている層は一定数いると思う。しかし、働きながら、生活しながらの学び直しは非常にハードルが高いので、ウェブセミナー（リアルタイムではない録画視聴等）を中心に学び直しができるカリキュラムが必要に感じる。また、学費や生活面での支援も重要だと思う。（加藤委員）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- 防災・安全面でのマニュアル等は全教職員に浸透を図るべく毎年の年度開始の全教職員会議にてマニュアルの読み合わせを行っているが全教職員が実践できるレベルではない

② 今後の改善方策

- 年 1 回実施をしている避難訓練の回数を増やす。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 元旦に能登半島沖で大きな地震があった為、学校という大人数を抱えている施設だからこそ防災の意識を常日頃から持つておくの良い。貴校においても毎年避難訓練やマニュアルの読み合わせをやっているとので継続して欲しい(丹野委員)
- 生徒を預かる施設として避難訓練は非常に大事だと思う。回数を増やすということなので是非実行していただきたい。合わせて部外者が立ち入りやすい環境でもあるため、防犯対策について備えることも重要だと思う。(加藤委員)
- 現場においても避難訓練などは実施している。回数を多く行うことで不測の事態に対応が出来ると思うので継続した方が良い(中村委員)

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- 入学前のオープンキャンパスにおいて業界の魅力等をしっかりと伝えているが、一定層目標喪失が原因で退学をしてしまう生徒がいる為、アプローチの方法を変えていく。

② 今後の改善方策

- 入学してすぐに業界の魅力が伝わるブライダル研修の実施方法の見直し、スクールソーシャルワーカー等との連携強化。

③ 特記事項

特になし

③ 学校関係者評価委員会コメント

- (4)学習成果の部分でも触れたが、目標喪失が原因での退学は入学前の説明や入学後の学校生活において防ぐことが出来ると考える為、特に入学前のオープンキャンパス等の説明をしっかりと行うことが重要だと思う(丹野委員)
- 専門学校という短期の就学期間を考えると難しいとは思いますが、大学のように入学後、共通教育期間を設けて学科変更をする機会を設けてはどうか。(加藤委員)
- オープンキャンパスで伝えている内容は高校生にとっての進路選択に重要になると思うので、これからも継続的に行って欲しい(中村委員)

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 関係法令に関しては日常的に見るものではないが、しっかりと理解をしておくことが大前提である。法令の改定等も多くある為、適宜確認や理解度を高める為の学びの機会を設けると良い。学校においては個人情報の取り扱い等、最大限の注意をしていく必要がある。（丹野委員）

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- 地域連携については概ね実施が来ている。一方で教育訓練については受入れの表明はしているものの、人数が集まっていないのが現状であるため広報の見せ方に課題があると考え。

② 今後の改善方策

- 教育訓練給付金を利用した社会人の積極的な受け入れが出来るように DM や SNS 等を用いて広く周知をしていく

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 教育訓練給付金のアピールが大事だと思う。転職やキャリアアップのために学ぶ機会があること、給付金を活用できることをアピールすることが重要に感じる。また、卒業生に声掛けして、実例をつくるとよいのではないと思う。（加藤委員）

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

- 留学生の受入体制は整っているものの実際に留学生の入学がない

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 人手不足が深刻な中、外国人の受け入れは企業にとっても非常に重要だと思う。留学から就職までの事例がはっきりしていれば、多くの外国人が留学に来る可能性があると思う。(加藤委員)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- 2023 年度は新型コロナウイルス感染症の 5 類相当への引き下げや世間もコロナ禍以前の動きへの変化が多かった年だった。学校としても今まで制限をしていたことを少しずつ以前と同じように実施が出来るように取り組みを増やすことのできた 1 年だった。(石川さん)
- 2022 年度の改善点を 2023 年度は特に地域連携の面で改善にすることが出来た。今回の学校関係者評価委員会の中で新たに頂いた目標喪失が原因の退学率の低下等を、行事や授業を通して改善が図れるよう学校運営に努めていく。(石川さん)

【学校関係者評価委員会コメント】

- 変わらず学校としては生徒募集や就職の実績など非常に良い結果を出していると思う。
昨年度強化出来た地域や仙台にある企業との繋がりをさらに強いものにして頂きたい。(加藤委員)